

塩谷郡市医師会だより

Contents

- 1 第2回理事会報告
- 2 第18回塩谷郡市医師会市民公開講座報告
- 3 学術講演会報告
- 4 会員投稿・イベント

一般社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

◆第2回理事会報告

出席者：阿久津会長、佐藤副会長、村井副会長、花塚会計担当理事、佐藤(勇)・村井(信)・仲嶋・植木・高橋・手塚・須田理事、中嶋監事

令和5年9月26日(火)午後6時45分から、佐藤副会長の司会により開催された。

- (1)冒頭に、栃木県医師会から『団体所得補償保険の新プラン追加』及び『医療機器保守費用コスト削減サービス実施』に関する説明があった。
- (2)齋藤事務長から、11月12日開催の第18回塩谷郡市医師会市民公開講座についての経過報告
- (3)阿久津会長から、夜間診療室の運営(令和6年度)についての報告
令和5年度の夜間診療室が、従来の診療体制を組めなかったことから、塩谷広域行政組合と協議を重ね、当医師会は報酬額の増額他の要望書を提出した。
- (4)齋藤事務長から、研修委員会 産業医部会の開催についての報告
- (5)佐藤副会長から、保険委員会の開催と保険診療勉強会の11月28日(火)開催についての報告
- (6)今年度の行事等についての報告
 - ・12月3日第3回ゴルフコンペ
 - ・1月12日さくら医師団幹事の新年会 等
- (7)その他
阿久津会長から 感染症法に基づく「医療措置協定」締結等に関する状況報告があった。

◆第18回塩谷郡市医師会市民公開講座報告

開催日時：令和5年11月12日(日)PM1:00~3:00

場 所：さくら市氏家公民館

ご来場者数：300人、スタッフ：32人

国際医療福祉病院不整脈センター長 福田浩二先生を

お招きして心房細動の講義をしていただいた。コロナ禍のため数年ぶりの会場での開催であった。やはり実際の参加者を交えた会場での開催で活気が感じられる市民公開講座であった。



心房細動という演題で一般住民には内容が難しいかと懸念されたが、福田先生のお話はとてもわかりやすく、多くの方が理解されていたと思われる。終了後のアンケート調査でもわかりやすかったという意見が多かった。超高齢化社会を迎えた日本においては健康寿命をいかにして伸ばすかが課題であるが、生活習慣病を始め様々な疾患が健康である期間を短くしている。心房細動は脳梗塞発症のリスクを増加させたり、心不全を起こしたりすることで健康寿命を縮める重要な疾患であり、近年その治療の重要性が認識されている。福田先生から心房細動の病態、合併症の問題点をわかりやすく解説していただき、その予防・治療の重要性が理解できたと思われる。正常の心拍と心房細動の異常な拍動はアニメーションを交えた解説で非常にわか

塩谷郡市医師会ホームページ/メール

URL <http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/>
メール shioya@tochigi-med.or.jp

広報委員会編集部

高橋 雄二 ・ 中嶋 義明 ・ 加藤 健 ・ 岡 一雄

りやすかった。心房細動の多くは加齢が原因となる疾患であり、発作性から始まり徐々に進行して持続性そして回復不能な永続性へと進展することも理解できた。心房細動の発症予防に関しては我々にもできる生活習慣病の是正法、検脈の仕方など具体的な対策を示していただいた。心房細動の合併症による生活の質の低下や死亡率の増加が問題であることもエビデンスに基づくデータから解説していただき、その深刻さが伝わったと思われる。心房細動の治療に関しては抗凝固療法の大切さ、不整脈薬による内科治療そして最新のカテーテル・アブレーション治療にいたるまでわかりやすく説明して下さった。心房細動の発見には医療機関での検査も発達しており、最新のスマートウォッチの活用も有効であるようである。

会場からは多数の質問が寄せられ大変充実した内容の講演であった。(北條行弘)

学術講演会 I (Web)

「糖尿病治療の最新の知見」

日時：令和5年2月21日(火)

講師：獨協医科大学 腎臓・高血圧内科

准教授 本多 勇晴 先生

本多先生は一般的に高血圧、高脂血症、糖尿病といった成人病と健康寿命の取り合わせの講演が多いが高尿酸血症のような食生活(暴飲暴食、飲酒)指導、痛風の治療ぐらいの軽視される疾患が健康寿命延伸にどう繋がるか臓器別に論文データを提示して話されました。心不全はがんに次ぐ死因第二位の心疾患の一要因だが、心不全に費やす入院費や介護費などは経過が長く経済負担が多い。尿酸値6.7を超えてくると高血圧になりやすく、eGFRが下がり心不全の引き金となる。日本人は尿酸排泄低下型の方が産生過剰型より多いため治療には排泄促進の薬が有効との見解でした。健康寿命を左右する心不全予防には尿酸値6.0未満を目指し、尿酸排泄型の薬剤を第一選択薬としていくのが望ましいと講演されました。(根本祐太)

学術講演会 II (Web)

「高齢者心房細動のトータルケア ～ポリファーマシー・フレイル・転倒をどう捉えるか?～」

日時：令和5年5月16日(火)

講師：遠賀中間医師会おんが病院

循環器内科 部長 吉田 哲郎 先生

加齢ともに発症する心房細動は、超高齢社会の到

来とともに増加することが予想される。心原性脳塞栓症を発症すると、予後が悪くADLが大きく低下するため、高齢というリスクだけで抗凝固療法を避けるべきではない。

高齢者の心房細動は、加齢に伴う老年症候群に加え、多くの例で複数の併存疾患があり、多因子疾患と言える。また、ポリファーマシー、フレイル・転倒リスク、栄養状態、腎機能といった高齢者特有の問題も抱えている。それらを踏まえた上で治療をどう組み立てていくかが大きな課題である。

抗凝固療法を行う場合、低用量DOACは、大出血リスクを有意に増加させることなく、脳塞栓症および全身塞栓症リスクを低下させることが期待される。また、エビデンスは十分とは言えないが、高齢者に抗凝固療法を導入する際の根拠の一つになりえる。

超高齢社会における心房細動の診療について、大変変俊に富むご講演でした。(仲嶋秀文)

学術講演会 III (Web)

「日常診療でよくみる病態と漢方治療 ～浮腫、高血圧、心臓神経諸症状の改善を目指して～」

日時：令和5年6月20日(火)

講師：筑波大学附属病院 臨床教授 総合診療科

協和中央病院 東洋医学センター

センター長 玉野 雅裕 先生

今後、高齢化社会を迎え心不全患者の増加が問題となっている。心不全の病態は臓器組織の浮腫・血流障害としてとらえられ、心不全に対してループ利尿薬が第一選択薬として投与されている。しかし高齢者においては、同薬により低ナトリウム血症、血管内脱水や腎機能の悪化を生じやすい。これらの欠点を克服すべくトルバプタンが使用開始され、わが国から長期予後改善効果も報告されている。五苓散は全身の臓器組織の水のアンバランスを是正する作用や組織の抗炎症・微小循環改善作用が特徴で、心不全に対してトルバプタンと併用することにより、優れた長期予後改善効果が報告されている。これらの心不全が、身体活動性の低下からサルコペニア、フレイル、認知症を引き起こし、治療抵抗性をもたらし、健康寿命を脅かしている。今回の講演では漢方の使い方の基本・西洋薬との併用の利点について詳しい話があった。これからの診療の一助となる有意義な講演であった。

(中津川昌利)

学術講演会IV (Web)

「弁膜症・心不全カテーテル治療のAtoZ ～冠動脈疾患合併症例の脂質異常症対策も含めて～」

日時：令和5年7月11日(火)

講師：済生会宇都宮病院

循環器内科 八島 史明 先生

心不全の原因になる基礎疾患の中で、最近は弁膜症が増えてきている話から構造的な心疾患の中で大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療(TAVI)を中心にアニメーションを含めてご講演をいただいた。TAVIの弁にはバルーン拡張か自己拡張するものがあり、アプローチは95%が大動脈から行われている。以前はTAVI後30日の死亡率は5%とリスクが高かったが、現在は1~2%。八島先生の所属している済生会宇都宮病院循環器内科ではTAVIの低侵襲化を目指して手術時間は2~3時間(麻酔に1~2時間、手術に約1時間程度)で終了している。TAVI治療後の10年以上の耐久性は不明ではあるが、7~8年は外科との違いはないとのことでした。長期予後の観点から冠動脈疾患がある場合、TAVI前にPCI(経皮的冠動脈インターベンション)はした方が良いとの話で、脂質異常症に対しては積極的なスタチン使用、TAVI後の薬物治療の重要性も話された。

そしてFH(家族性高コレステロール血症)について先生のご経験からスタチン・PCSK9阻害剤の説明もあった。また済生会宇都宮病院ではFHの遺伝子解析検査もできるという話もありました。(植木雅人)

学術講演会V (Web)

「プライマリケアにおける頻尿治療」

日時：令和5年9月12日(火)

講師：宇都宮脳脊髄センター シンフォニー病院

泌尿器科 山西 友典 先生

過活動膀胱は尿意切迫感を必須とする症状症候群で頻尿、夜間頻尿を伴うものであり、症状を把握するためには過活動膀胱症状質問票(OABSS)や排尿日誌が役に立つ。

薬物療法は膀胱を収縮させる副交感神経の働きをブロックする抗コリン薬と膀胱を弛緩させる交感神経を促進させるβ3アドレナリン受容体作動薬(ミラベグロン、ビベグロン)がグレードAだが、副作用が少なく、データも蓄積されてきたためβ3アドレナリン受容体作動薬の重要性が高まっている。また、骨盤底筋訓練や膀胱訓練、生活指導などの行動療法の重要性も説明された。(橋本 敬)

学術講演会VI (Web)

「胆道癌術後補助療法の確立」

日時：令和5年9月19日(火)

講師：栃木県立がんセンター

腫瘍内科 科長 仲地 耕平 先生

胆道癌において、治癒を期待できる唯一の治療法は切除であるが、リンパ節転移や切除断端が陽性の場合、再発リスクは非常に高く5年生存割合は30~50%である。欧米においてはCapecitabineが術後補助療法の標準治療とみなされている。日本では、S-1が膵



癌および胃癌に対する術後補助療法として生存期間の延長を示し、さらに進行胆道癌に対するS-1療法やGemcitabine+S-1併用療法においても良好な成績が報告されている。日本人根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の検証試験として第III相試験(JCOG1202/ASCOT試験)が行われた。S-1療法群は経過観察群と比較して有意に良好な全生存期間の延長効果を示し、忍容性も良好であった。根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法は本邦において標準治療になりうることが示された。(仲嶋秀文)

◆納涼会が開催されました



7月14日(金)矢板市「あおい亭」にて、矢板市医師団主催による納涼会が行われました。

4年ぶりの開催となりましたが、22名の参加者がありました。

◆趣味

村井医院 村井信之 (矢板市)

もともと何かを作ることが好きだった。小学生の頃はプラモデルづくりに没頭した。車や戦車、城、人体模型なども作った。最近ではロボット「ロビ君」も作った。(20万↑)しかし出来上がってしまうと興味が次に移ってしまう。料理も中学生くらいからカレーはよく作った。結構凝っているいろいろスパイスを入れたりした。大学に入ってから自炊はよくやっていた。その後の趣味はアウトドアと溪流釣り、キャンプしながら山奥まで行ってヤマメやイワナを釣るのが楽しかった。医業に関しても手術が好きだったので外科系を目指した。家の都合で耳鼻科医になった。

最近の趣味は夕食作り。クックパッドにレシピが載っていればだいたい作れるようになった。食事に合わせる酒についても造詣(ぞうけい)が深くなった。日本人なので日本酒をいろいろ飲んでみた。これからの季節、生カキには大吟醸日本酒で。そして体はどんどん丸くなる、クッキングパパに。

◆成人の先天性心疾患

きぬの里クリニック 北條行弘 (さくら市)

近年の医学の発達により生まれつきの心臓病である先天性心疾患もほとんどが小児期に見つかるようになってきました。成人となってから発症する例は比較的少ないと考えられます。小児心臓外科手術や内科治療の技術向上により多くの先天性心疾患患者は成人まで到達し長生きすることが可能になってきています。いままでは小児期に治療を受けた先天性心疾患患者が大人になっても小児科医が見続けることが多かったようです。今後、患者数の増加や複雑な術後の管理の困難さから小児科で継続して診療をつづけることが問題になってきています。このため医療機関によってはこれら患者のケアをするため「成人先天性心疾患(ACHD)」に対する専門診療科を設けることが増えつつあります。初期に手術をした術後の患者はすでに多くが40歳台に突入しつつあります。先天性心疾患の患者さんの半数以上は大人であるという時代が訪れつつあります。根治手術を受けた大部分の患者であってもその後の心不全発症、不整脈の発現、血栓症、移植

した人工材料の劣化、突然死など様々な医学的問題があります。その他にも社会生活上、運動はどのくらい可能か、仕事はどの程度まで許容できるか、保険加入はできるか、妊娠・出産が可能かなど様々なことも考慮しなければなりません。医学の発達により一つの問題を解決すると、新たな問題が生まれるということを認識させられます。

◆メガネ

在宅ほすびす 渡辺邦彦 (高根町)

40過ぎて老眼がはじまり、下半分が老眼鏡、上半分が近視用となっており、鼻パッドが1センチくらい動く全視界メガネを愛用してきた。しかし、60を過ぎると、手元が見えにくくなった。たまたま訪問した80後半の患者さんが、お尻で踏んで壊れない拡大鏡を使うと見やすいよ。と貸してくれたので、メガネの上から拡大鏡を付けたら確かに見やすかった。早速、拡大鏡を往診カバンに入れて持ち歩くようにした。何個目かの拡大鏡を買いにメガネ店を訪れた際、高齢の店員さんが対応してくれた。彼も、これまで会った若い店員さん達と同様、店内にある色々な器具で検査をしてくれたが、結論は違った。近視の度が弱くなっているからメガネの度を調整すれば見やすくなるはず…とアドバイスしてくれた。彼にメガネを作ってもらったら、拡大鏡は必要なくなった。最初は頼りなく見えた老店員であったが、熟練の技を知り、その後は、彼を指名して対応してもらっている。

◆第3回塩谷郡市医師会親睦ゴルフ大会開催

令和5年12月3日(日)さくら市のセブンハンドレッドに2組8名の先生が参加され、高レベルの戦いでした。反省会では、次回はもっと多くの会員の参加を期待する声が多かった。なお結果は、優勝：松村先生 準優勝：半田先生でした。

